



士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol.27 No.2501

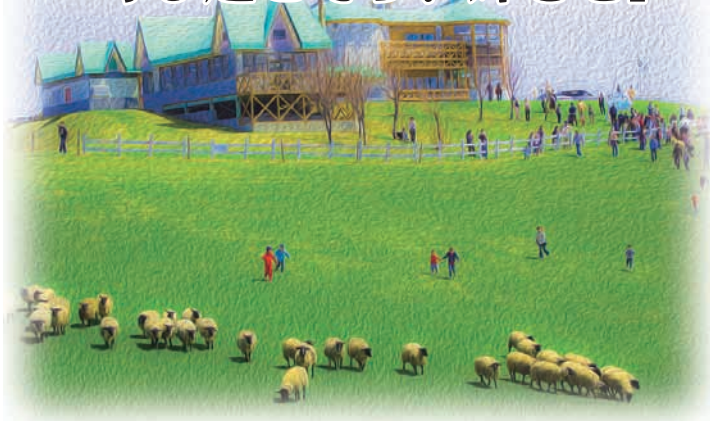
2014～2015年度 国際ロータリーテーマ



2014～2015年度RI会長 ゲイリーC. K. ホアン

2014～2015年度士別ロータリーのスローガン

「呼び起こそう、輝きを」



- 例会場／士別グランドホテル
- 例会日／毎週月曜日 12:10～13:10
- 事務所／士別グランドホテル TEL:(0165)23-1234
- 会長／宮崎隆雄 ■副会長／北村浩史
- 幹事／坂口芳一

今日のプログラム 第2582回例会 2015年3月9日(月)…〈普通例会〉

■3月2日の記録■ 普通例会

- 司会 佐藤元信 会場監督
- 斉唱 奉仕の理想
- 本日の出席 会員45名中 出席者38名 出席率84.44%
- 本日の欠席 今井裕、加藤博、國森和磨、鈴木勉、松塚信雄、深尾幸夫、渡辺正一
- メイクアップ
- ゲスト
- ニコニコBOX 奈良康弘(娘さんの大学入学祝として)、阿達勇(3月誕生祝)、近藤峯世(1月誕生祝)、神田英一(ピヒカラ樹氷歩くスキー大会終了御礼)

累計265,000円

例会予定

■3月の予定……《識字率向上月間》

- 3月2日(月)／例会・理事会
- 3月9日(月)／例会
- 3月16日(月)／例会
- 3月23日(月)／夜間例会
- 3月30日(月)／特別休会

■4月の予定……《ロータリー雑誌月間》

- 4月6日(月)／例会・理事会
- 4月13日(月)／例会
- 4月20日(月)／夜間例会
- 4月27日(月)／早朝例会

■会務報告宮崎隆雄会長

●先週25日、士別市議会第1回定例会が開会致しました。26年度の一般会計補正予算等の可決及び、27年度の一般会計と各会計の予算の審議を今月20日迄の24日間で行われます。厳しい財政状況のなか、地域の活性化や市民サービス向上等にむけての善処を期待したいところです。

また、同日午後6:30より「牧野勇司さんと市民の集い」に出席して参りました。会場には500人程の市民が集まり、急遽ロビーにもテーブルを追加して開催されました。牧野市長は基幹産業である農業、合宿の里、そして水と緑の財産を生かした地域創生に取り組んでいきたいと意欲的に想いを語っておられました。

本日は、保健福祉部健康長寿推進室士別市地域包括支援センター所長の米谷祐子様をお迎えしてゲスト卓話頂ける予定です。後程、プログラム委員会より進行して頂きます。よろしく願い致します。

■幹事報告坂口芳一幹事

●先週の夜間移動例会に出席の会員の皆様、ご苦勞様でした。楽しめたかなと思っておりますが、例会終了後理事会を開催致しますので、役員・理事の方は出席の方宜しく願い致します。

■委員会報告

●ロータリー情報委員会尾崎 学委員長

新入会員セミナー3月4日午後6時からここで開催することになっております。3年未満の新入会員の皆さんが7名、宮崎会長以下会員の皆さんが10名ということで全部で17名の出席の中でセミナーを開催したいと思っておりますので、出席義務関係の皆様の出席を宜しく願い致します。

■次年度報告近井孝義次年度幹事

●先週2月27日に開催致しました第1回次年度理事会におきまして、2015~2016年度のクラブ組織費表の承認を頂きましたので、本日配布させて頂きました。

●来週3月11日に次年度第1回クラブ協議会を開催致します。詳細に付きましてはFAXにてご案内致しますので、役員及び委員長の皆様出席の方宜しく願い致します。

■本日のプログラム谷 温恵プログラム委員長

本日はゲスト卓話となっております。改めて士別の街の現状やどのように暮らしていくことが必要かということをお話を頂くこととなっております。宜しく願い致します。

■ゲスト卓話.....

士別市保健福祉部健康長寿推進室地域包括支援センター所長 米谷祐子氏



私は士別市保健福祉部健康地様寿推進室地域包括支援センターの所長をしております。専門的な資格としては、社会福祉士や保健師の資格でもって仕事をさせて頂いております。士別の現状と課題、どういう街になっていくんだろうか、

これからどうやって市民の皆様がどのような事に気をつけたり、助け合ったりして暮らしていかななくてはならないのか、というところをお話出来たらと思います。

士別市の高齢者社会像ということで、今士別市では第6期の高齢者健康福祉計画、第6期介護保険事業計画というのを策定していますが、今から10年後には士別市の高齢者、いわゆる65歳以上の人口は今から10年後にピークになるという推計図になっています。人口が1番多くなるのが10年後なんです、全体の人口が減っていくので、若い人達も人口が流出してなくなったり、子供が生まれなくなったりしていますので、高齢者の総人口に対する割合というのは平成37年には40%を超えると言われております。士別市の人口の30%を超えたのが平成20年だったと思うんですが、それから毎年1%ぐらいは確実に高齢者人口の割合が上昇している状況です。下の表は要介護認定率といって、65歳以上の人達の中で何人が要介護認定を受け、介護サービスを受けているかという割合を要介護認定率といいますが、37年には21.5%、高齢者の2割の方が認知症や寝たきりである、足腰が弱ってきて介護サービスを利用する、施設に入所しなければならないという要介護の必要な方が増えていきますという数字になります。士別市は高齢化率が進んで暗いイメージですが、認定率2割の人が要介護状態になりますが、8割の人は元気です。ロータリークラブの皆さん平均年齢が60歳を超えたとお聞きしました。5年後の平均年齢はロータリークラブは65歳を超えるのかなと考えたこところであります。1人暮らしの割合も高齢化率が伸びていくと、おのずと士別市も1人で暮らされる方がいっぱいいるんですが、皆さんイメージとしてどうでしょう。1人で暮らされるとどういうことが不安なのか。どういうことが現実に起きているのかと申しますと、例えば孤独死とか孤立死が起きたりします。閉じこもったり、引きこもったりして発見されない、誰にも看取られないで亡くなっていくという

方が実際に士別市では年に数件起きているという現状もあります。閉じこもることによって誰とも話さない、運動もしないということで、認知症が少しずつ進んでいくという士別市の実態があります。2月24日に地域支え合い事業研修会というのをやると1人暮らしでなくても困らない街づくりというのを募集しましたら、130人以上の市民の方が集まって頂いて、それがやっぱり高齢化とか将来1人暮らしになってどうやって安心して生活していったらいいのだろうという不安がいっぱいおありになって、多くの方々が研修会に集まって頂けたのかなと思っております。先程10人に2人は介護サービスを利用していますということで資料ナンバー2の要支援の認定者数、要介護の認定者数併せて1200人から1300人の間で少しずつ増えてはいます。要支援の認定者はサービスを使っている方は半分くらいしかいませんが、要介護認定を受けた方はほとんどが在宅のサービスを利用したり、施設のサービスを利用しています。士別市の市内にお住まいになっていて最近ものすごくあちこち施設が立ち上がっているという状況はご存知でしょうか。資料ナンバーの3にありますように、高齢者介護福祉施設というのが一覧になっています。1番から16番まで特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、老人保健施設、認知症の方が入居するグループホーム、介護付有料老人ホーム、住宅型有料老人ホームとか、最近出来たのが介護付有料老人ホーム（サービス付高齢者向け住宅）、これは西條デパートの北側に紫苑館というのがありますが、そこは今厚労省進めている高齢者さんが見守りを受けながら介護の提供を受けたり食事の提供を受けたりして集合住宅みたいな形を国は今進めています道北でもあまり無いんですが、士別市では見守り付の有料老人ホームが立ち上がったということが特徴あります。本当に士別市は高齢者向けの施設が多くてよその街よりも本当に多いです。決して施設依存型ではないんですがやはり核家族化になって子供達とかご家族がいらっしやなくて、家の中の高齢者が要介護状態になるとやはり施設に入らざるを得ないというところでいくと、施設というのは整備していく必要があるのかと思います。国は介護保険社会保障給付費がどんどん右肩上がりです給付費が増えているということで国のほうでは、これ以上介護サービスは使わないようにしてくれということは必要な人が必要な時に必要な量だけ介護サービスを使いなさい、今まで風呂敷を広げ過ぎた訳ではないんですが、自分達で出来るところ或いは地域で出来るようなところ助け合いというところを今強調してき

て支え合えの街づくりをやっている、これから不足する介護サービスを補っていくような地域を作ってくださいという取り組みが始まっています。士別市も高齢者人口毎年が1%ずつ上がるよといった平成22年から高齢者さんの1人暮らしの実態はどうかというところで実態調査が始まりました。その中で高齢者さんが1番心配なことは冬の除雪であったり話し相手がない、車を手放したら買い物に行くのにどうしようということであったり、いろんな部分の将来困る事、今困っている事がだいたい見えてきたんですが、だからといってその困り事についてさあどうしようという対策はまだ今のところ支えの中では不十分なところがありますので、今地域の中に私達で入らせて頂いてどうやって1人暮らしの方を支えていったら或いはいけるのかといったお話し合いを少しずつ始めまして、市内の3つの自治会にサロンというところを作って始めた自治会がごさいます。これは何かと言うと普段閉じこもっている高齢者さんが集まって居場所、寄り合いみたいな居場所作りを地域の中で作って頂いて、認知症予防でありますとか介護予防でありますとか、そこで人と会って話をする事で閉じこもりの防止になるということで、全国的に身近なところのサロン作り、居場所作りというのが作られている状況です。後ろの地域支え合いだよりというのが4、5、6号と毎年3回位発行しているんですけども地域でどんな支え合い活動が行われているかいろいろPRした新聞を全戸配布させて頂いています。この中で皆さんに見て頂きたいのが支え合いだよりのナンバー4、平成26年7月1日に発行した支え合いだよりの後ろに地域支え合い事業協力事業所登録申請書というのがあります。これは普段のお仕事の中で気になる高齢者さんを見かけたら市に連絡して下さいというに協力してくれる事業所が登録するんですよ。去年も何件かちょっとご様子がおかしい、普段ヤクルトを持っていったらすぐ出てくるのに出てこないんですよといった時にちょっと警察と一緒に入ることでその人が倒れていたことがわかったり、新聞がたまっていてちょっとあそこ1人暮らしなだけけれども気になるんだわと言われてたら、やはり家族と連絡を取らせて頂いて家に入って救出するみたいな感じでかなり助けられています。今日お越しの会員の皆様事業所さんにおかれましては登録申請して登録協力事業所になって頂きたいと思います。3ページ目には去年の5月末61事業所が登録してくれていますよと紹介していますけれども、今71事業所がこの見守り協力事業所として登録、協力して頂いておりま

す。今日お越しの中でも会社の方とか登録して頂いております。本当に有難うございます。国の方で社会保障給付費がすごく上がっていくからそれを持続可能させていく為に地域で支える仕組みを作っていないかなければならないという風に今進めていますよ、士別もそうですよというところで決して何にも高齢者さんを支えていない街ではなくて、平成23年からは実態調査の後、命のバトンって知っていますでしょうか、65歳以上の1人暮らしの方に透明のプラスチックの中に緊急連絡先や本人の住所、氏名、年令、生年月日、掛かり付け医、飲んでる薬の紙などを命のバトンに紙を入れて冷蔵庫で、必ず全国共通のルールなんですけど冷蔵庫のドアポケットに入れる命のバトンを平成23年度からお配りしていて、今だにお高齢者さんの殆どが持って冷蔵庫の中に入れてあります。これは1人暮らしであるとか高齢者だけの世帯にお配りしていますけれども、家族がいても日中独居なんで心配だという高齢者さんがいれば、その方も申し出て頂ければ交付することになっていますので、日中1人になって心配の方がいらっしやいましたら、支援センターの方を紹介して頂きたいと思えます。士別市の取り組みとしては命のバトン、福祉、自治会毎に昭和46年位から始まっているんですが、23年度からは自治会中心に市全体で広めていこうということで、半分以上の自治会が福祉パトロール、見守っていかねばならない高齢者さん内示を作ってパトロールの隊員さん達が高齢者の見守る方もしているという自治会がすごく増えています。平成27年2月現在71自治会中52自治会が取り組んでいて高齢者さん374人の対象者さんに見守り声掛けを行っています。平成23年度から生活・介護支援サポーターというボランティアさんを養成して地域でサロンを開催するとか、見守り活動を強化するとか、いろんなところで活動して頂いてこれからもボランティアさんを市のほうとしても養成していきたいと思っております。まずは皆さんが要介護状態にならないように今平均年齢61歳というのを聞きしましたが、1番いまテレビ広報で認知症が出るようになりまして85歳過ぎたら約半分は認知症になりますよと、かなり士別市も認知症の方割合的に何百人も出てきておかしくない状況になっているんです。要介護認定を受けた1300人近くの方の半分以上が認知症の度合いを表すものがあるんですが介護認定を受けた半分以上は認知症と言う診断ではないんですがその症状があるよというところにチェックが付いた調査票となっておりますので、本当に士別市はこれから高齢化率がどんどん上がっていくということ

は、まずは1人暮らしがいっぱい増えて閉じこもっていて、家の中の様子が見えないという家が増えていくのかなということと、認知症の方が士別市では本当に増えてきていて、例えば徘徊していていなくなってしまうと命を亡くすということもこれから注意して見ていかないと、そういう事件が起こってくるのではないかと思います。こんな小さな街ですけどもSOSネットワークとって徘徊高齢者を探そうというネットワークがあるんですが、多いときで7、8人少ないときで1人、2人はいなくなって私の知っている人では名寄の智恵文まで歩いて行ったという事例があったりとか電動自転車に乗ってなくなったという事例など、今は車に乗って徘徊というのはおかしいんですが本当にあって美深の山の中で車ごと発見されたという部分もありますので、体は丈夫であってもそういう認知症の方がいっぱい増えてく、だけど施設は沢山作っても追いつかないという状況でありますので、まず皆さんが認知症にならないためにお酒の飲みすぎですとか太りすぎですとか、そういうことはちょっと控えて頂くと運動すると良くテレビで言っていますがボケ予防になるということで、歩く事、人と会って喋る事、家の中に閉じ困らない事等一生懸命やっていると認知症は予防できると言っておりますので、皆さんも今から認知症を自分で予防して、いろんなところで活躍させて頂きたいと思えます。勿論私も運動不足ですので一生懸命運動して自分も認知症を予防していきたいと思えます。地域包括支援センターは高齢者の総合相談、認知症の相談とか地域のサロン作りのお手伝いとかいろいろさせて頂いておりますのでこれから皆さん宜しくお願い致します。

■ 3月の誕生祝い



阿達 勇、今井 裕、

2名の会員が今月誕生日を迎えます。
おめでとうございます。